

平成 28 年度藤枝明誠高等学校 学校評価 ※ 評価基準 A：十分に実践されている B：ある程度実践されている C：不十分である D：わからない

教育目標	「学園は、教える者と教えられる者とが、相互の信頼によって相互に生かされる精神的な共同体」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。						
経営方針	「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」「自然愛や人間愛を大切にする豊かな情操」を培う。また、日本人としての美德を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質を培う。						
本年度重点目標	Ⅰ 学習指導の充実		Ⅱ 進路指導の充実		Ⅲ心豊かでさわやかな生徒の育成		
重点目標	評価項目	具体的な方策または評価項目を評価する具体的な指標 【 】は数値的目標	平成 28 年度実施結果(成果は○、改善すべき事項は◇) ※丸数字は左欄丸数字の項目に対応	自己評価 62 名	教員からのコメント (評価理由・意見感想・改善点)	学校関係者 評価 6 名	学校関係者からのコメント 評価理由・意見感想・改善点)
Ⅰ 学習指導 の充実	授業改善への取り組み	①生徒の学習意欲が高まるような分かる授業を実践するとともに授業改善に努める。 【生徒の授業満足度(満足+どちらかといえば満足の比率)95%】 【授業満足度(生徒)と自己考査(教員)を年 4 回実施】 ②普通科と英数科間、各クラス間、各教員間の指導の格差を改善し、指導の共通化を図る。 ③定期テスト後に教科検討会を開催し、学力定着度の検証及び教科指導の改善を行う。 【年 2 回実施】	①○生徒の授業満足度調査、授業に対する教員自己考査とも年 4 回実施した。 ◇授業満足度調査の授業満足度(満足+どちらかといえば満足)の比率は回を追って上昇したが、教員別・項目別に見ると、結果を活かしての授業改善でまだ不十分な点が見られる。 ○数学特任講師による若手教員への個別指導は効果的であった。他教科でもノウハウの共有化を進める必要がある。 ○【生徒の授業満足度(満足+どちらかといえば満足)の比率 95.2 %】 ②◇「理解させるための根気強い指導」や英数科と普通科の指導格差、クラス間や教員間の指導の格差がまだまだ大きいため、改善を進めたい。 ◇クラス編成も含めて、普通科の学力向上への取組が更に必要である。 ③◇教科会議を毎週行える状況(時間割)を整えたため、教科検討会の回数は増加したが、全学年の状況を把握して 3 年間見通しての指導計画を共有するところまでは至らず、学年、コース、担当者による情報交換にまだ留まっている。	A 19.4 % B 71.0 % C 8.0 % D 1.6 %	・英語表現力は他校と比べてかなり上にいると自負している ・教科間、教師間の格差が気になる。せめて年 1、2 回でもお互いの授業を見て研修する機会が必要である ・普通科と英数科とで “授業格差”が生まれてしまっていると思う。 普通科…指定校をもらうための授業。結果として力がつかない 英数科…入試のための授業 ・授業の進度や効果など、もっと教科会議などを利用して綿密に行っていく必要がある ・教科会議の開催を徹底すべき ・普通科に対する指導の難しさを感じるが、生徒があきらめてしまわないように指導する必要がある ・普通科、英数科の指導格差の改善 ・普通科の進学指導の共通意識（認識）の改善 ・普通科生徒への意欲向上にさらに努力する必要がある ・進路面も含めて考えないと授業に向かう姿勢につながらない。評価についても同様。「できなくても良い」→評価がついている ・それぞれの凝り固まった指導観も悪くないが、生徒の特色を把握する必要がある ・普通科（特に総文）への偏見を持っている教員が数名いる ・今後とも普通科・英数科の指導格差を縮めていくための指導を継続していくべき ・普通科の生徒には「部活が本業」ではなく「学業が本業」だということを理解させないといけない ・教務、渉外の仕事量が多く、思うような個別指導をすることができなかった ・行事の密度が濃いためか、授業を平常に行える週が年間を通して少ない。反省する時間をもう少し増やしたい ・英数科・普通科の格差を小さくするようにしたい ・教員同士の連携も良くできていた ・教科会議が行われなかった（英語科） ・教科会議が十分機能しておらず、英・数の主要教科においても学年担当の指導が優先され、教科として統一されていなかった ・生徒のやる気が出るのは教員次第である ・教員の若手とベテラン間に授業力の差があるのは当然なので、日常的にお互いの授業を参観し合う雰囲気をつくりたい ・工夫した授業が実施されている ・各教科での研修（模試、授業等）を活性化する必要がある ・計画されたものは実施されているが、目的を果たすためという意識が不十分である	A 50.0 % B 50.0 % C 0 % D 0 %	・普通科の生徒には根気強く、粘り強く指導してほしい ・教員の授業評価がどのようになされているかになる ・普通科と英数科との格差是正に努力願いたい ・生徒のやる気が出るのは教員次第だと思う ・受験生の結果を見ると 3 年間、6 年間の成果が出ていると思う ・生徒の授業満足度は 95%と高いので全体的には良いと思う ・大勢の生徒が入学しているので普通科・英数科の格差はある程度仕方ないかもしれない。が、普通科だからやらなくてもいいわけではない。英数科の生徒に負けない良い成績をとっている生徒もいるので、そのような生徒がより高い成果を上げられるように考えていただきたい。逆に、英数科でついていけない生徒への対応も考えてほしい ・生徒に授業が勝負、授業が大切であるという意識をさらに高めてほしい ・教科会議の開催によって教育力向上を図っていただきたい ・普通科生徒の勉学に対する意欲向上をお願いしたい
	学力の定着と向上に向けたきめ細かな指導	①放課後プロジェクトや 9 時まで学習の一層の活性化を図る。 【9 時まで学習参加率 60%】	①◇図書室における放課後プロジェクトの自主参加は、やや減少傾向にあり、担当職員の声掛けによる参加が目立った。 ○職員室及び職員室前フロアで、積極的に個別指導を受ける生徒が増加した。 ◇「受験は団体戦」の指導の核である「9 時まで学習」は、年々減少傾向にあり、本年度は参加率 54%であった。	A 35.5 % B 58.1 % C 3.2 %	・中位生徒の動機付けは必要 ・教師も生徒もよく頑張っていると思う。ただ、本校の目玉活動の放課後プロジェクト、9 時まで学習がややマンネリ化しているので、新たなアクションが必要だと思う ・論理エンジンについては授業内容、定期テストなど、改善の余地がある。論理エンジンがセンター試験などの活かされるためには生徒に力がついたと実感させなければならないが、そこまでは至っていない ・いわゆる授業ではない指導には、生徒も良く取り組んでいる（普通科） ・生徒の力を伸ばす様々な実践は見られる。しかし、個々に必要なものを選択させ、さらに意欲向上につなげる指導が必要である	A 50.0 % B 50.0 % C 0 %	・「9 時まで学習」も含め先生方の努力に頭が下がる ・放課後プロジェクト、9 時まで学習に新たなアクションが必要かもしれない ・少子化もあり、定員を充足するのも難しい中、学力低下もやむを得ないかもしれないが、学力が不足している生徒を何とか引き上げていただきたい ・良い環境だと思う

		②予習、復習、宿題の提出・点検指導等の徹底を図る。 【復習テスト 年5回実施】 ③英語検定指導等を継続して組織的に行う。 【英検 2 級以上の合格者 220 名以上】 ④学力の基礎である国語力(文章読解や表現力)の向上のための取り組みを行う(論理エンジンの一層の充実・活用等)。 【論理エンジンの全学年への導入】 ⑤国際教養教育を推進する。(プロジェクトチームの設置等)	②○各教科・各学年において、きめ細かな指導が実践された。各教科では、同学年の各科・各コースの担当者間での連携が取れていた。各学年では「学習記録表」等を利用しながら、学習習慣の確立を図った。 ◇主要教科において、各学年を縦断しての指導方針が確立されておらず、学年と担当者の個性の強い指導となった。 ◇進路からの復習テスト実施への呼びかけが、年度初めにはあったが、各回にはなく徹底されなかった。 ③○英検 2 級以上合格者は目標値にこそ届かなかったが大きな成果であった。また GTEC(コミュニケーション能力テスト)も実施した。これらの取り組みにより英語の学力が向上した。 ○【英検 2 級以上の合格者 201 名(うち、準 1 級合格者 14 名は本校過去最高記録となった)】 ④○論理エンジンによる指導を 3 学年全コースで実施し、国語力向上を図った。センター試験得点を下支えた。 ◇全般的には依然国語力の向上は課題であり、引き続き国語力向上に努めたい。	D 3.2%	・強制力も各方面から発すると受け手の生徒は一人なので、一杯になりエスケイプ傾向も出てくる ・粘り強い指導ができていると感じる。そこが他校にはない本校の良さである ・英検で 2 次対策など、英語科で連携して、手厚く行うことができた ・努力の賜(成果) だと思う ・「9 時まで学習」を通して勉強する環境に身を置くことは意義があると思う(誘惑に勝てない生徒にとっては) ・勉強は誰かを誘ったり、呼びかけたりしてやるものでもないので、減少しようと増加しようと「その年の色」だと割り切ることも必要だと思う ・国語科全員が論理エンジンにチャレンジしたことは評価したい ・普通科 3 年の 12 月定期テスト終了後からの授業のあり方が課題である ・生徒の自習力が落ちていると感じる。自分で考える力が足りない ・英検のみを重視しすぎではないか。漢検、数検などにも挑戦し、生徒が幅広く知識等を得られる環境でも良い。指定校の基準にも加えていいのではないか ・普通科の学力低下が著しいので対策が必要である ・英検取得状況はよいが、国語力向上の糸口がまだつかめていない。英数に偏りがちな傾向は否めない ・細かく、ていねいに、わからないところを減らす指導を行うことができた ・指定校の基準が甘いのと、それ頼みで進路を考える生徒・保護者がいる ・英検等の検定を各教科指導に取り入れることなどで普通科の学習意欲向上につなげられないだろうか。資格取得が今後の入試改革にあたってもプラスとなる ・英検 2 級だけが常に特化されており、他の教科はどうするのか ・進学校としては、まだまだやるべきことがあるという姿勢を失わないことが大切である ・国数英強化の成果が出ている ・自発的に、また、意欲的に参加できる雰囲気が見られた ・英検への取り組みは本校の英語力向上に大きく寄与している ・すべての教科の基礎となる国語力、特に表現力を鍛えたい ・計画されたものは実施されているが、目的を果たすためという意識が不十分である	D 0%	・やる気の出る声掛けというものがある。個々を見て自宅でやるより学校でやる方が能率が上がるのではないかという生徒には先生方から声をかけていただいて、「9 時まで学習」に参加させるようにしていただきたい ・英検のへの取り組みは素晴らしい ・「9 時まで学習」は明誠の色として定着している。さらなる進化を期待したい ・職員室および職員室前フロアで個別指導を受ける生徒が増加しているのも熱心な先生方があってこそだと思う ・英語力向上は進学における必須な要素である。英検への取り組みなど、英語教育への取り組み向上が見られる。さらに期待したい ・普通科の生徒も積極的に英検を受けるように指導していただきたい ・普通科の生徒に対して目的をしっかりと持たせ、大学受験に向けた指導をお願いしたい ・英検での目標を達成した生徒には漢検等にも取り組ませてほしい
Ⅱ 進路指導の充実	進路希望の達成に向けたきめ細かな指導	①進路講話や個別面談、総合的な学習等(キャリア教育の推進を含む)により目標設定と進路意識の早期確立を図る。 ②教員の教科・進路指導の力量向上を図る。 ③教科検討会で模擬試験結果の検討を行い、生徒各個人に対応した指導を行う。 【年 2 回実施】 ④大学への現役合格達成を図る。 【現役合格 95%】 ⑤進路希望が達成され、生徒が満足できるような進路指導を行う。	①○1 学年は、文理選択のため「夢ナビシート」・「学部・学科レポート」による学問分野の研究を、2 学年は、大学職員による学部学科説明会の実施・外部講師による進路講演・オープンキャンパス参加奨励などで進路意識の高揚を図った(2 年生は、保護者対象進路マネーガイダンスも実施した)。 ○国際教養コースでは、1 年生が地域創生のプログラム学習、1・2 年生への高校部長による放課後特別授業等で、本校独自のグローバルな視点の養成がなされた。外部講師による講話・関係大学訪問等で、国際的な視野の拡大や進路の明確化がなされた。 ②○教科・進路指導力の向上に向け、各教員が個々に研鑽に努めた。 ◇各教科で、経験があり指導力のある教員の指導方法・ノウハウの共有化がなされなかった。 ③◇外部模試後の分析・検討などは、その学年の担当者間では行われても、教科全体での検証は十分に行われなかった。週一度の教科会議の時間を有効利用したい。 ④◇大学現役合格率は 96%であった。	A 37.2 % B 59.6 % C 3.2% D 0%	・かなり細かく指導した ・各課・コースなどで、若干の差があるように思われる ・学年団での計画的な指導が行き届いていると思う ・国際教養に導入したプログラムは大変そうだったが、生徒の将来に大きくつながる企画ではないかと生徒の感想から感じる ・教科会議があまり開催されなかった ・総合学習の時間が土曜日の 3 限に設定されているので、部活動や学校説明会との重なりが多すぎ、新しい展開がしにくい ・本当に生徒のために最後まで指導できた ・センター試験後から 2 次対策授業に入れないだろうか。特に、普通科の生徒でこれから真剣に試験を受ける生徒にとっては全員参加の授業では十分なことを学べない ・進路課や担任による指導はこれでもかというくらい手厚い ・将来の自分を思い描けるように色々な職業の方のお話を聴く機会があると生徒は視野が広がるのではないか ・センター試験の過去問を週 1 回行うことができた。プラスアルファの講座もできた ・進路目標の早期決定とその管理のためにも仕掛けを工夫したい ・各教科における指導法のノウハウ共有は急務である ・2 年生から大学の説明会に行った方がよい ・普通科生徒に対する外部模試をもっと充実させた方がよい ・大学研修や講演などを通して、大学とはどのようなところなのかを考えさせたい ・進路指導についても教科同様にノウハウの共有を勧めていかなければならない	A 33.3 % B 66.7 % C 0% D 0%	・土曜日の総合学習の内容は生徒全員に行き渡ることが必要ではないか。時間の工夫をされてはどうか ・現役合格の達成に努力されていることは素晴らしい ・進路指導は十分だと思うが、大手進学塾に負けないくらいの進路情報の提供をお願いしたい ・センター試験後は 2 次対策授業でよいのではないか ・先生方は本当によく生徒たちの相談にものってください、対応して下さった ・中学の時から先輩たちの話も聞けていたので早い時期から自分のやりたいことを見つけることができた ・大変熱心に細かく指導されていると思う ・「面倒見がよい」という評価が地域に定着している。このような評価を継続していただきたい ・細かな進路指導をして下さっていると思うが、早期に進路目標が決まるように大学説明の場を増やしてほしい ・高 2 ぐらいから大学についてもっと真剣に考える場をつくってほしい

	難関大学等の合格に向けた指導	①難関大学を含めた国公立大学及び難関・中堅私立大学に合格できるような学習・進路指導を推進する。大学合格目標を以下に設定する。 【東大、京大、国公立大医学部計3名以上、旧帝大計10名以上、静大・静岡県大・静岡文芸大計30以上、国公立大学計70名以上、早大・慶大・上智大計20名以上、MERCH・東京理科・関関同立計80名以上合格】 ②東大・京大等の入試問題研究を行い、合格へ向けての効果的な指導を研究する。また、大学入試対策セミナーに積極的に参加し、その研修内容を職員間で共有する。 ③新大学入試制度に向けての研究・研修を行う。 ④3年生対象に、入試実力養成のための放課後特別講座を実施する。	①○各学年とも模試を積極的に活用し、学力の養成を図った。また教科によっては、事前に過去問等を配り意識高揚を図っていた。 ○模試成績は、各教科ともおおむね良好であり、第1回目～第3回目と回を重ねるにつれ上位層の厚みがます結果となった。 ○担任の熱心な指導により、A0・推薦入試による合格者数が増加した(北大・名大を含め21)。 ○【現役合格：京大3名、旧帝大3名、静大・静岡県大24名、国公立大学計63名合格。 早大6名・慶大1名、MARCH・東京理科・関関同立合計37名合格】 ◇二次対策講座の参加率が55%と低く、生徒にまかせるケースが目立ち、学年の求心力をもう少し発揮したかった。 ◇難関私大に挑戦する生徒がやや少なかった。進路課で各生徒の受験計画を把握すべきであった。 ②③このような研修には積極的に取り組んでいきたい。講師を呼び、校内で研修を行うことも検討したい。 ④○放課後に入試対策として個別指導を行った。英語、数学の個別指導は効果があった。	A 35.5% B 56.5% C 4.8% D 3.2%	・早慶の合格者を増やしたい ・トップ層に対する学力の一層の向上を目指す指導が充実できている ・若い担任の指導力が伸びてきている。さらに。英数・普通どちらも意識を高め、国公立大学へのチャレンジを増やしたい ・さらなる研究が必要だと思う ・高3学年としては個々の担任の特色が良く出た学年であったように思う。しかし、指導しやすい学年であっただけに、もう少し伸ばせた可能性がある ・センター試験後から家庭学習に入れないか ・国公立大学や有名私大の合格者が多い。今後も力を伸ばしていきたい ・京都大学現役3名合格は開校以来の快挙であり、うち2名は学年の3年間の指導の成果である ・国公立後期受験指導は学年・担任に任されるケースが多く、体制づくりが必要である ・継続して行っていきたい ・自信を持たせ、難関大学へチャレンジさせるために、3年計画で実現できる工夫を考えたい ・目標達成に向け、頑張りたい ・京大3名合格は快挙と言えるが、旧帝大や国立医学部への合格者をもっと増やしたい	A 33.3% B 66.7% C 0% D 0%	・生徒も努力したことと思うが、先生方の指導の結果だと思う ・早い段階からの受験に向けた指導がなされていると思う。結果も伴ってきているが、さらに一層の努力をお願いしたい ・先生方の研究や努力が生徒の進路意識向上につながり、成果となっていると思う ・普通科の生徒の学力向上にしっかり取り組んでいただきたい ・難関大学への合格者が増えたことは下級生のやる気や意識も向上していると思う ・普通科の生徒もやる気を出させるように指導していただきたい
Ⅲ 心豊かで さわやかな 生徒の 育成	社会性や道徳心の育成	①礼節を重視し、様々な場面で、マナーや社会的規範意識を育成する。正門一礼や予鈴黙想の励行なども継続して指導する。 ②校内外の美化や教室等の整理整頓に対する指導の徹底を図る。 ③交通マナーの指導を強化し、地域住民の苦情をなくすとともに交通事故防止を図る。 【交通事故10件以内】 ④德育を強化し、思いやりの心を育成するとともに問題行動の発生を防止する。 ⑤生徒の様子を観察、生徒面談、いじめ調査等を活用して、いじめ行為防止に取り組む。 ⑥インターネットなどSNSについての啓蒙を	①○礼節指導を継続して指導した。挨拶はかなり良好である。 ◇登校時の鞆の違反(無許可のバッグやアクセサリー装着等)や、商店での振る舞いなど、校外での社会道徳や一般常識の一層の向上が必要である。 ②○サッカー部、陸上部、バレー部、野球部等の自主的な清掃活動(早朝等)により、校地や学校周辺の環境美化ができた。 ◇HRで清掃活動指導を行ったが、指導しきれない部分もあった。 ③○野球部の街頭指導や交通安全委員による街頭交通指導は交通安全推進に貢献した。 ◇交通マナーについてHR等で繰り返し指導したが、地域住民から交通マナーに対する苦情が時折り寄せられた。 ◇【交通事故14件】内5件は相手側の過失。 ◇自転車施錠点検を7回実施した。施錠車率は向上したが、定着しない生徒もあり継続指導が必要。 ④⑤○いじめ調査は3回(7月、11月、2月)実施したが、実施時期を早めたことにより、早期対応ができた。 いじめに関する調査、エコーカードの活用はいじめの防止に役立った。 ⑥◇SNSによるトラブルは特になし。	A 38.7% B 48.4% C 12.9% D 0%	・挨拶は大変良くてきている ・道徳性に疑問が残る生徒も少なからずいるが、教員が一丸となって指導できている ・バックのアクセサリーについてルールがなくなりつつある ・交通マナーは苦情が入ってすぐに対応しているところが良かった ・野球、サッカーといった部員数の多い部活動が生徒指導を厳しく行っており、担任、教科担当としてやりやすい。部活動の指導は学校を支えているように思う ・各クラスの生徒数が少なければ落ち着いて学年になる傾向がある。人数が増えるときは注意する必要がある ・校風検査については全体で統一する必要がある(男子の頭髮など) ・生徒の規範意識低下が著しい。一般常識がたりない ・野球部の街頭指導は実施されていない ・SNSについての教育(生徒・保護者とも)はこれからも定期的に行っていく必要がある ・一部部活による毎朝の清掃活動に頭が下がる ・生徒の問題行動の把握、および問題に至らないための事前指導・意識付けをさらに行いたい ・スマホ等の指導を通年で行う必要がある ・自転車の並列走行をよく見かける。苦情も多い ・ゴミへのモラル・マナー、交通ルール・マナーの意識向上が必要である ・下校時、部活を終えて帰る集団の意識を変えなければ自転車マナーへの苦情電話は今後も続く ・部活生徒だけが行っても意味がないのでは。すべての生徒が行うべきである ・校外マナー向上こそ明誠広報の生命線の一つだと考える。さらなる工夫・努力を継続したい ・自転車マナーについては大きな改革が必要である ・明誠の生徒は地域の方から非常にいい声を頂いている。思いやりの心を育てていきたい ・交通マナーや冬期の指定外マフラー(ネックウオーマー)の指導を徹底したい ・清掃のために早朝登校させるのは気の毒のような気もする ・明誠の卒業生は本当によく訪ねてきてくれるとこの時期になると思う。心の繋がりができている	A 50.0% B 50.0% C 0% D 0%	・自転車、特に男子生徒はスピードがあり、並進は危険 ・命の大切さについて考えさせてほしい ・校内指導の充実が校外指導の充実につながると思う ・あいさつはいつも花丸 ・交通ルール、身だしなみは気にならないくらいできていると思うが、生徒の意識が低いという意味では繰り返し伝えていく必要があると思う ・携帯については様々な意見はあると思うが、大人にもモラルを守れない人が結構いるので、学生の間は厳しいなと思うくらいでいいと思う ・しっかり守っている生徒が多い ・先生によって「良い」「悪い」の判断が違うのは困る ・命の大切さを伝えてほしい ・自転車のマナーについては日々繰り返し指導をいていただきたい ・他校に比べ、挨拶など来校者に対する姿勢がすばらしい ・学校より離れた場所での並進での自転車通学の姿を見かける ・挨拶は基本的なことだが、立ち止まり礼

		行い、問題発生を防止する。 【いじめ調査年3回実施】	○【いじめ調査年3回実施】		のだと、うれしそうに報告する姿を見て思う ・校門の出入りの礼をさらに多くの生徒ができるようにしたい ・自分のことを「お客様」だと思っている生徒がいる ・学校の設備を大切に使うように指導する必要がある ・苦情が多すぎる。交通マナー指導のあり方を検討した方がいい。地域に好感を持っていただくためにも必要である		をしながらの挨拶は気持ちよく、感心する ・校内美化も部活動の一環として行われている。良くできていると思う ・時々、遅刻すれすれなのか、猛スピードで交差点をすり抜けていく生徒を見かける。危ない
	基本的 生活習慣の確立	①欠席や遅刻等の減少を図る。インフルエンザについては感染防止対策を徹底する。 ②正しい身だしなみの指導を徹底する。 【学年全体風紀指導年6回実施】 ③基本的生活習慣の指導を職員の共通理解のもとに実施する。 ④校則遵守の徹底を図る。	①◇生徒のインフルエンザ`感染防止が不十分だったため、1月に患者が急増した。 ◇遅刻が減少するには至らなかった。 ②○学年校風指導を学年団の意思統一のもとで7回実施した。服装面で大きな乱れもなく、スカート丈についても良好であった。 ○【学年全体校風指導年7回実施】 ③○基本的な生活態度はある程度確立されていた。 ○乙女塾の実施等、女子指導は充実してきた。◇さらに職員の指導の共通性を図りたい。 ④○生徒は校則をおおむね遵守していた。	A 37.1% B 58.1% C 4.8% D 0%	・目立って羽目をはずす生徒も少なく、指導が行き届いている ・遅刻者が多くなってしまい、けじめがつかなかった ・校風検査での基準が教員によってばらつきがあり、指導困難になった時がある ・服装の乱れは少なく、良好である。女子指導の充実が大きな成果となっている ・アルボナースのクラスでの使い方が良くないので改善が必要である ・乙女塾はとても良かった ・校内では概ね良好である。校外でも良好な状態を保てる意識付けを行いたい ・髪型の基準が担当教員間で定まっていない ・昨年度よりインフルエンザ生徒が減少したことは良いことである ・身だしなみ、挨拶など明誠指導の核となる部分はぶれることなく、統一感があつた ・体育の後や寒い時期など、服装の乱れていることが多かった（特に、総文） ・10年前と比べれば生徒はルールを守るようになった ・挨拶ができない教員もいる。教員もしっかりすべきである ・登下校中の服装について様々な手立てがとられたが、まだ徹底できていない面が目につく ・体育館シューズの履き替えについて徹底させたい ・校風検査の時は良いが、登下校時は守れていない生徒が目立つ。女子指導の徹底 ・部活以外の生徒の挨拶を良くしたい	A 33.3% B 66.7% C 0% D 0%	・校風検査は学校の規則に則り,各先生方に共通認識を持ってやってほしい。崩れ始めると早い ・身だしなみ指導が徹底されていると思う ・大変良く指導されていると思う。高校生らしく、明誠らしく、生活面でも常にトップの意識を持たせたい ・服装の乱れもなく、指導が行き届いていると思う ・身だしなみ、挨拶ともに良好で感心する ・先生は生徒を指導する立場なので、先生方も挨拶をしっかりしてほしい
	部活動の充実	①学習と部活動の両立を一層推進しつつ、生活面での指導も強化することにより、心身を錬磨し、自律的な精神と協調性を養う。 【部活動加入率80%以上】 ②県大会や全国大会への出場及び各大会での上位進出を果たす。 【県大会出場～全ての部、全国大会出場～4部】	①○多くの生徒が部活動に加入している。 ○【部活動加入率約81%】 ○各部のテスト前の集団学習が活発になってきた。 ○各部とも積極的な活動が行われ、対外活動だけでなく、服装、部室の美化等に大きな変化が出てきた。 ○試合の結果のみならず、各部活動を通じて人間形成にしっかりとした取組が出来ようになってきた。 ○部室点検を積極的に実施した。 ◇部室等の施錠の徹底が不十分であった。 ②○サッカー部、陸上部、棋道部、柔道部、射撃同好会が全国大会に出場した。野球部、バスケットボール部、テニス部が東海大会に出場した。図書研究会が高校生直木賞に参加。吹奏楽部等も県大会で活躍した。ほとんどの部が県大会に進出した。 ○【県大会出場～ほとんどの部、全国大会出場～5部】	A 51.6% B 45.2% C 1.6% D 1.6%	・各部活とも指導者が一生懸命になり、生徒がその指導に応える形になっている ・大会での活躍だけでなく、服装や礼儀といった面でも良くなった ・集団下校する交通マナーだけは改善の必要がある ・どの部活もすばらしい活躍だった ・学校の知名度アップに貢献している ・英数科でも部活動を目的の一つとして入学してきている。両立させていく指導を大切にしたい ・女子の運動部を充実させることが生徒募集につながる ・年々活発になっている ・部活動生が学校生活の中で積極な姿勢をみせることができるように指導していきたい ・部活動を通しての人間形成ができていない ・部活動が素晴らしい成果を上げ、今後加入者がより増加すると思われる。今後、特に普通科における学年・部活・進路の連携の取れた進学指導を工夫したい ・部活だけやっていればいいという考え方の生徒もいるが、大半は勉強も部活もしっかりやるという生徒である	A 100.0% B 0% C 0% D 0%	・各大会に出場し好成績を収め、「文武両道」の明誠のアピールに大きく貢献していると思う ・部活も勉強も文武両道で充実されている ・部活の活躍は広報につながる ・どの部活も頑張っていると思う ・学校新聞（明誠ニュースなど）での活動報告や生徒の声（思い）を読むのを楽しみにしている ・各部活の活躍が明誠の名を高め活気づけている ・先生方の指導に大変感謝している ・熱心に部活に取り組む姿がいい ・勉強と部活の両立は難しいと思うが、頑張っている生徒も見られ感心する
Ⅳ 広報・渉外活動の充実	効果的な広報活動による学校理解の促進	①広報誌の発行、報道機関への周知等様々な手段を通して、本校教育に対する保護者や地域社会の理解を深める。 ②ホームページ(HP)の更新を積極的に行い、効果的な情報発信を行う。 【月当たり訪問者30,000以上、直帰率40%未満】 ③地域の自治会等への情報提供や学校行事への招待等を積極的に行い、学校理解の促進と広報	①○「明誠ニュース」「進路だより」保護者会広報誌「初心」など予定通り発行した。 ○新たに日刊スポーツ社に委託して「学校紹介新聞」を発行し、小中学生の募集活動に活用した。 ○サッカー部の全国大会、野球部の東海大会出場等が大きくマスコミに取り上げられ周知が進んだ。 ○保護者会地区会で出された質問や要望への回答を文書で配布した。 ②○HPの訪問者数が大幅に増えた。HPの更新を積極的に行い、内容の工夫も行った。 ◇HPのリニューアル化に向けて取り組み始めたので、次年度完成させる。 ○◇【月当たり平均の訪問者33,681人、直帰率46%】 訪問者数は増加したが、直帰率も増えた。	A 54.9% B 38.7% C 3.2% D 3.2%	・予定されたことも含めて、その都度充分なアピールができた ・HPを新しいものにするための工夫がなされた ・新幹線から見えるような横断幕があるといい ・新ホームページへの期待は高い ・全国大会に出場しなくても、もっと知られるようにした方がいい ・日刊スポーツ社の学校紹介新聞は非常に効果があった。訪問先の中学校が興味・関心を示してくれた ・HPに関しては業者を変え、やっとスタートラインに立ったばかりである。きちんと対象者を考え、学校カラーやシンプルでわかりやすい構造等を検討する必要がある	A 100.0% B 0% C 0% D 0%	・広報紙、HPの活用も広報活動だと思うが、地域の人たちとの連携も必要である。そのような地道な活動をさらに充実させた ・地域行事に参加した生徒の評判が良い ・部活の活躍はやはり大きな広報活動になる ・日刊スポーツとの企画は非常にすばしかった。各メディアとの関係も充実させたい ・HPがリニューアルされるのが楽しみである ・今年度はサッカー、野球、卒業生の活躍で明誠の名が全国に知られたのではない

		の推進を図る。	③○入学式、卒業式、文化祭、体育大会に自治会役員を招いた。				か
	積極的な渉外活動の実践	①小中学校への積極的な学校訪問等により募集の拡大を図る。併せて、入学者の増加に有効な方策を具体的かつ速やかに検討・実施する。 ②県内中学生への募集を積極的に行い、引き続き東西部、中部近隣からの入学者を確保する。 ③県外募集の充実を図り、有為な生徒の確保に努める。 【学則定員の確保】	①②○一日体験入学を午前、午後と2回に分けて実施。参加者は生徒1,602人、保護者782人、合計2,384人と昨年度より500人強増加した。併せて学校説明会への参加者も前年比25%強増加した。 ○志太、榛原地区への中学校訪問を職員で分担し、3年主任や進路指導主事と直接面談して募集拡大を図った。また、通学費補助の対象となる静岡、小笠地区では重点校を絞り募集活動を行い、小笠地区では志願者が昨年度の2倍となった。また、学習塾への訪問を積極的に行った。 ○高校入試の合格者数は、普通科が923人(単願179)、英数科が882人(単願101)、合計1,805人(単願280)となり、昨年度より単願で110名大幅に増加した。3/3 現在入学予定者は336人。併願者の戻りを含めれば学則定員(360人)を越えることになる。 ③◇福岡・札幌入試は、受験者は121人(昨年比24人減)であったが、単願合格者は10人(昨年比7人増)であった。学習特待生の入学を増やすための方策を検討する必要がある。	A 66.1% B 30.7% C 0% D 3.2%	・各教員が募集に対する意識を強く持ち、活動した一年間だった ・生徒数増に向けて継続的に全教職員で取り組みたい ・予想より多くの来校者があり、会場設定を工夫する必要があった ・今年は素晴らしい結果となった ・生徒数確保のために非常に重要であるが、説明会、部活関係などの行事において重ならないようにバランスを取った方がいい ・良い試みである ・分担しての中学校訪問はとても効果的であった。ただ時期は再考の必要がある ・入学者数増は広報活動・渉外活動が結実したものである ・渉外活動がとても充実しており、大きな成果となった ・今年度の活動が定員確保という成果につながった ・もっといろいろな先生が小学校訪問した方がいい ・渉外担当者のリーダーシップのもと、各教員が連帯感を持って取り組むことができた。来年度が正念場だと思うので、自覚を持って努力したい ・説明会等で良いイメージを持ってくださる生徒や保護者多かった ・説明会で来校する人数に対して教員が対応しきれない(駐車場、会場数など)	A 100.0% B 0% C 0% D 0%	・よい結果で、これが長く続くことを期待する ・募集活動の取り組みも充実されている ・私立を考える保護者も多くなっていると思う。私立の良さを私たちもアピールしていきたい ・大変充実していると思う ・積極的な渉外活動が志願者増につながったと思う ・吹奏楽部が行った小学生招待も良かった
V 教育施設・設備の活用	安全で快適な教育環境の実現	①学習活動や部活動が安全かつ快適に実施できるよう常に配慮する。 ②施設・設備のより有効な活用を図るとともに、机・椅子の整備等、教育環境の整備に努める。 ③電気、紙等の節約を励行し、経費と資源の有効活用を心がける。 ④地震発生時の避難や防災に関する訓練等を効果的に実施し、生徒の安全を確保する。 ⑤原子力災害に対する避難計画を作成する。 【防災訓練年2回実施】	①○毎火曜日早朝に理事長点検を実施し施設の安全を確保した。 ○◇清掃活動に力を入れた。改善された点と不十分な点の両面が見られた。 ◇校舎施錠について色々な方策を行ったが徹底しなかった。 ②○剣道部の床の修繕を実施した。◇机、椅子、黒板等の劣化が見られる。継続的な更新が必要である。 ③◇消灯、空調のスイッチオフ等の節電や紙の節約などはまだ十分とは言えない。 ④○5月に防災避難訓練、8月に防災学習を実施し、防災意識を高めた。 ○防災マニュアルを常時活用できるように生徒手帳に添付にした。 ⑤◇原子力災害に対する避難計画は未作成であった。(藤枝市の指針が未発表のため)	A 17.7% B 69.4% C 11.3% D 1.6%	・教室内電灯の安定器不良等、まだまだ直さなければならない部分が多い ・他の私立と比べても施設設備に難がある。これはマイナスになる ・教員全体の清掃、施設管理維持への意識改革が必要である ・担任は施設管理責任者であるという意識をもっと強く持つべきである ・黒板、教壇など老朽化が見られる ・ポリッシャーなど、定期的に校舎内の清掃・整備が行われた ・机、椅子、黒板、トイレ等の修繕が必要である ・日直は7時30分までとし、超過勤務手当を支払えば、より徹底できる ・教員の喫煙マナーが気になる。通学時や休み時間に生徒が近くにいても平気でタバコを吸っているが、生徒が通行する時間帯ぐらいは、タバコは禁止した方がいい。受動喫煙が問題になっている時代だということを考え直してみる必要がある ・寮でスタッフが何もかもやるのではなく、清掃などは生徒にやらせるべきではないか。生徒の成長につながらない ・トイレを何とかしてほしい ・生徒のための学習室(図書室とは別の)設置をお願いしたい ・破損箇所の修繕がなされないままになっている ・机・椅子、黒板、トイレ等、改善すべきところは多く残っている ・校舎・体育館等の劣化が目立ってきた ・理事長が来るから清掃しようという姿勢が見られる。清掃の意味を考え直したい ・一部、劣化の目立つ机・椅子があり、回収が必要である ・トイレ、黒板、机等を新しくする必要がある ・説明会等の開催に向け、駐車場の工夫をする必要がある ・これまでも危険性があったことだが、上層階は特に南側の窓の部分に柵がないので非常に怖い。清掃時にも危険を感じることもある ・目に見えにくい部分の清掃、整理を行った方がいい ・トイレの洋式化をすすめていく必要がある ・図書室の椅子がきれいになった ・トイレが汚い。清掃だけでは無理なので、改修が必要である ・体育館2階外廊下に水飲み・手洗い場を設置してほしい ・生徒の「大切にする」という意識向上をさらに図りたい ・東北の大震災時の教訓・状況を生徒に理解させたい。マニュアル化したものではなく、どう防いだか、どう助けたかといった具体的な資料が必要ではないか	A 0% B 100.0% C 0% D 0%	・少しずつ改善していただき、生徒が快適に勉強に向き合えるようにしていただきたい ・予算を考慮しながら効果的な修繕を行っていただきたい ・環境は整備されているが、さらにトイレの問題を改善していただきたい ・年数が経てば老朽化も仕方がないが、生徒確保のためにも修繕をしていただきたい ・生徒(保護者も)見た目を重視するところがある ・快適な学校生活を送れるように、保護者の協力も含めて長期的な対策をお願いしたい ・危険性があるところは早く修繕していただきたい